

事業報告書

令和6年度

(第9期事業年度)

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目 次

I	法人の現況、目的、業務内容等	1
	(1) 法人の現況	
	(2) 役員等の状況	
	(3) 職員の状況	
	(4) 法人の理念や運営上の方針	
	(5) 法人の目的	
	(6) 業務内容	
	(7) 法人の位置付け及び役割	
II	業務実績等の状況	5
	第1 中期計画及び事業年度の期間	
	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 地域における役割・機能と担うべき医療	5
	(1) 静岡病院が担う役割・機能	
	(2) 静岡病院が担うべき医療 (高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療)	
	2 患者の視点に立った信頼される医療の提供	8
	(1) 患者中心の医療の推進	
	(2) 医療安全対策	
	(3) 患者サービスの向上	
	3 医療従事者の確保と働き方改革	11
	(1) 医療従事者の確保	
	(2) 医療従事者の働きやすい環境づくり	
	4 地域との連携	13
	(1) 地域の医療機関との連携	
	(2) 市や関係機関等との連携	
	(3) 市民への情報提供	
	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 効率的な業務運営等	16
	2 教育研修の充実	17
	3 職員の勤務意欲の向上	18
	4 事務部門の強化	19
	第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 経営指標に係る数値目標の設定	19
	2 収入の確保及び費用の節減	20
	第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
	1 法令等の遵守	21
	2 施設・医療機器等の更新	22
III	法人の内部統制の状況	23
IV	業務運営上の課題・リスク管理の状況	24
	(1) リスク管理の状況	
	(2) 業務運営上の課題	
V	予算と決算の対比	25
	(1) 予算	
	(2) 収支計画	
	(3) 資金計画	
VI	その他市の規則で定める業務運営に関する事項	27

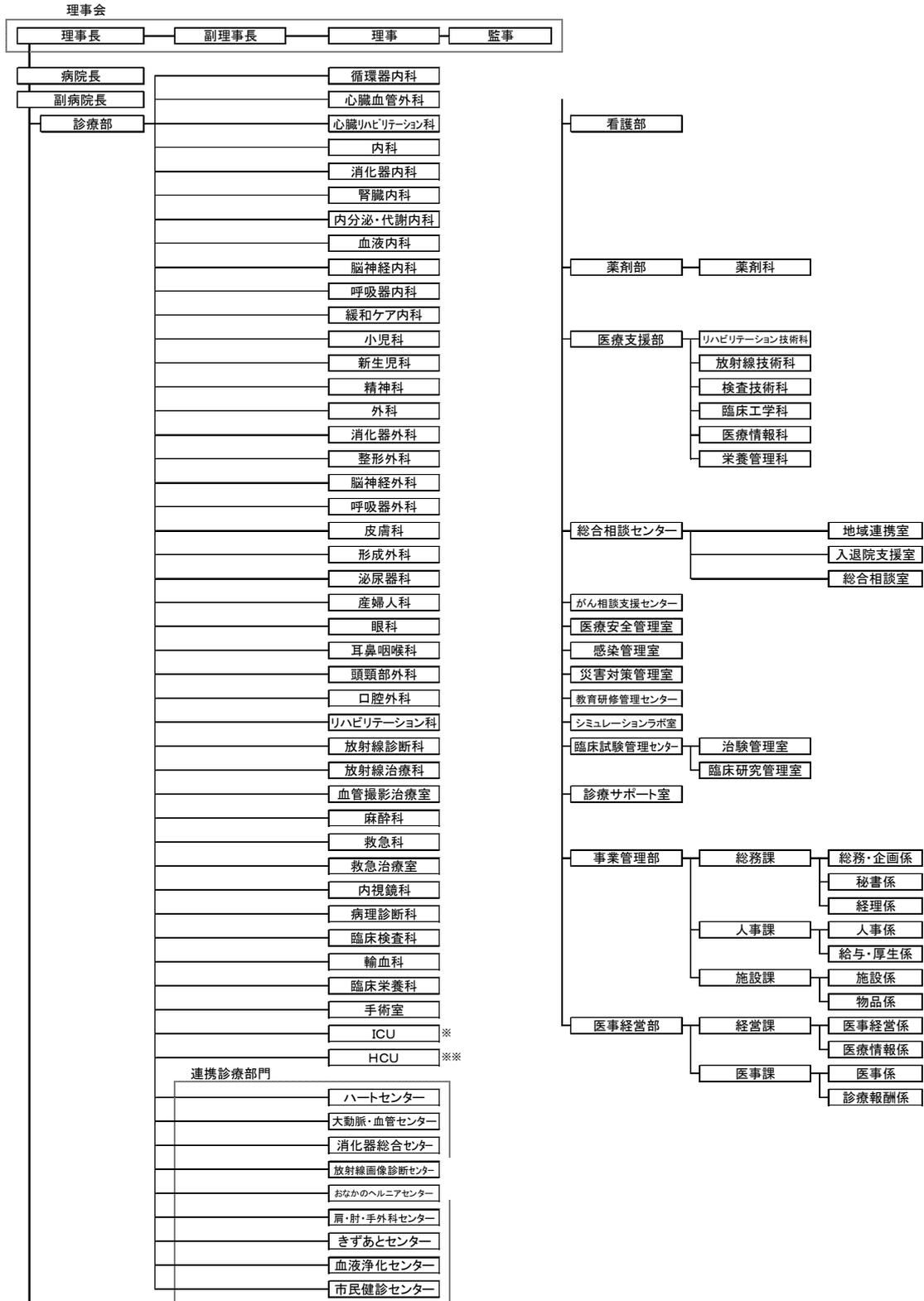
VII	財務諸表及び運営状況	28
	(1) 決算概要	
	(2) 主な診療実績	
	(3) 経営指標	
	(4) 貸借対照表	
	(5) キャッシュ・フロー計算書	
	(6) 純資産変動計算書	
	(7) 行政コスト計算書	

I 法人の現況、目的、業務内容等

(1) 法人の現況 (令和6年4月1日現在)

法人名 地方独立行政法人静岡市立静岡病院
 所在地 静岡市葵区追手町10番93号
 設立年月日 平成28年4月1日
 組織図 (令和6年4月1日)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織図 (令和6年4月1日)



※ICU: インテンシブケアユニット ※※HCU: ハイケアユニット

(2) 役員等の状況 (令和6年4月1日時点)

役 職	氏 名	任 期	備 考
理事長	小野寺 知哉	自 令和5年4月1日 至 令和9年3月31日	常 勤 病院長を兼務
副理事長	前田 明則	自 令和5年4月1日 至 令和9年3月31日	常 勤 副病院長を兼務
副理事長	平松 以津子	自 令和5年4月1日 至 令和9年3月31日	常 勤
理 事	大畑 和弘	自 令和5年4月1日 至 令和7年3月31日	常 勤
理 事	深澤 誠司	自 令和5年4月1日 至 令和7年3月31日	常 勤 副病院長を兼務
理 事	居城 舜子	自 令和5年4月1日 至 令和7年3月31日	非常勤
理 事	渡邊 昌子	自 令和5年4月1日 至 令和7年3月31日	非常勤
理 事	藤田 尚徳	自 令和5年4月1日 至 令和7年3月31日	非常勤
監 事	興津 哲雄	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日 至 令和8年度財務諸表承認日	弁護士
監 事	山田 博久	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日 至 令和8年度財務諸表承認日	公認会計士

(3) 職員の状況 (令和7年3月31日現在)

職員数 972名

(内訳) 医師 177名
看護師・助産師 545名
医療技術員 177名
事務職 73名 (うち派遣職員14名)

(4) 法人の理念や運営上の方針

基本理念

開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。

基本方針

1. 患者さんを主体とし、患者さんにとって最善の全人的医療を実践します。
2. 静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図ります。
3. 市民の安全を守るため、二次救急医療、救命救急医療、災害時医療を提供します。
4. 地域医療の充実のため、病診連携、病病連携、保健福祉機関との連携を図ります。
5. 職員は、研修、研究、教育を通じて医療水準の向上を図ります。

(5) 法人の目的 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第1条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、地方独立行政法人法(平成15年法律第118号。以下「法」という。)に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うとともに、地域の医療機関との役割分担及び連携のもと、静岡市の医療施策として求められる救急医療、高度医療等を提供することにより、医療の水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的としています。

(6) 業務内容 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第17条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、法人の目的を達成するために、次に掲げる業務を行います。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に従事する者に対する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 人間ドック、健康診断等の予防医療を提供すること。
- (6) 上記(1)から(5)に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

(7) 法人の位置付け及び役割

【法人の位置付け】(令和7年3月31日時点)

病院名	静岡市立静岡病院
主な役割 及び機能	地域医療支援病院(平成18年) 臨床研修指定病院 救急告示病院 第一種感染症指定医療機関(平成20年) 災害拠点病院(平成25年) 地域がん診療連携拠点病院(平成19年) エイズ中核拠点病院 地域肝疾患診療連携拠点病院(平成19年) 地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定病院(平成20年)
診療科目	内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科及び病理診断科 (計31科目)
病床数	506床(感染症病床「一類2床、二類4床」を含む)

沿革	明治2年 追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設 明治9年 公立静岡病院として屋形町で開院(県立) 明治15年 県立から郡立(有度・安倍郡)に移管 明治22年 静岡市制施行に伴い静岡市に移管 明治38年 市立静岡病院と改称 昭和20年 戦災により焼失 昭和21年 隣保館(巴町59番地)を改築、仮病院とする 昭和26年 追手町10番93号(現在地)に移転 昭和49年 本館(旧東館)竣工 昭和60年 病院建設工事施工(4か年継続事業) 昭和62年 第1期西館高層棟完成 平成元年 第2期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成 平成2年 オープンシステム(開放型病院)実施 平成3年 心電図伝送システム導入 平成7年 オーダリングシステム稼働 平成15年 新静岡市にて開設 平成15年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定審査に合格(Ver.4) 平成15年 地域医療支援室を設置 平成18年 地域医療支援病院の承認を取得 平成19年 地域がん診療連携拠点病院の指定 平成19年 肝疾患診療連携拠点病院の指定 平成20年 東館竣工 平成20年 電子カルテシステム稼働 平成20年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.5)
----	--

平成 21 年	D P C 対象病院
平成 22 年	病院専用駐車場竣工
平成 25 年	ハイブリット手術室稼働
平成 25 年	内視鏡下手術用ロボット (ダ・ヴィンチ) 稼働
平成 25 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新 (3rdG : Ver. 1.0)
平成 25 年	災害拠点病院の指定
平成 26 年	経カテーテル大動脈弁置換術開始
平成 28 年	地方独立行政法人としてスタート
平成 29 年	P E T / C T 稼働
平成 30 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新 (3rdG : Ver. 2.0)
令和元年	創立 150 周年記念式典及び祝賀会挙行
令和元年	パルス式キセノン紫外線照射ロボット (ライトストライク) 導入
令和 2 年	新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定
令和 2 年	特定行為研修指定研修機関の指定
令和 3 年	総合医療情報システム (電子カルテ) 更新
令和 4 年	大動脈・血管センター開設
令和 5 年	肩・肘・手外科センター、おなかのヘルニアセンター開設
令和 5 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新 (3rdG : Ver. 3.0)
令和 6 年	きずあとセンター、ゲノム医療センター開設
令和 6 年	J A 静岡厚生連静岡厚生病院と医療機能連携協定締結

【法人の役割】

第 3 期中期目標期間における法人が果たすべき役割

○市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

- ①地域における役割・機能と担うべき医療
 - ・ 静岡病院が担う役割・機能
 - ・ 静岡病院が担うべき医療
 - 高度医療・専門医療、救急医療、感染症医療、災害時医療等
- ②患者の視点に立った信頼される医療の提供
 - ・ 患者中心の医療の推進
 - ・ 医療安全対策
 - ・ 患者サービスの向上
- ③医療従事者の確保と働き方改革
 - ・ 医療従事者の確保
 - ・ 医療従事者の働きやすい環境づくり
- ④地域との連携
 - ・ 地域の医療機関との連携
 - ・ 市や関係機関等との連携
 - ・ 市民への情報提供

○業務運営の改善及び効率化

- ①効率的な業務運営等
- ②教育研修の充実
- ③職員の勤務意欲の向上
- ④事務部門の強化

○財政内容の改善

- ①経営指標に係る数値目標の設定
- ②収入の確保及び費用の節減

○その他業務運営

- ①法令等の遵守
- ②施設・医療機器等の更新

II 業務実績等の状況

第1 中期計画及び事業年度の期間

第3期中期計画の期間 令和5年4月1日から令和9年3月31日までの4年間とする。

第1期事業年度の期間 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間とする。

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域における役割・機能と担うべき医療

(1) 静岡病院が担う役割・機能

○静岡病院が果たすべき役割

- ・静岡県地域医療構想を踏まえ、急性期医療・高度急性期医療を担う静岡市の基幹病院として、診療体制の整備や急性期医療の提供、地域の医療機関及び介護／福祉施設等との連携に努めた。
- ・新たにJ A静岡厚生連静岡厚生病院と医療機能連携協定を締結し、両病院間での患者の早期相互受け入れによる病病連携を推進し、地域医療を支えるための連携強化に努めた。
- ・入退院支援室による入院決定から退院までの一貫した支援や、地域の医療機関／施設等との連携により、適切な入院治療に向けた支援と円滑な退院に向けた支援に取り組んだ。
- ・患者家族が自宅退院を希望した場合には、地域のかかりつけ医や訪問看護ステーション、ケアマネジャーや介護施設と連携し滞りない退院を目指した。患者の状態を確認しリハビリ等後方病院との協力により、生活できる状態で自宅に帰れるよう調整を図った。
- ・DPC入院期間Ⅱ以内退院割合は、院内での早期退院に向けた取組みを継続的に行ったことで70%を超える結果となった。
- ・地域連携パスを活用し、かかりつけ医との切れ目のない連携と治療経過の共有により、質の高い医療の提供体制を推進した。慣れ親しんだかかりつけ医で地域連携パスを受けられるよう医師会と病院が協力して連携に取り組み、地域連携パス新規利用件数は前年度と同水準で推移した。
- ・重症度、医療・看護必要度Ⅱは令和6年度診療報酬より、専門的な医療を必要とする患者割合が特に高い基準である基準①と一定程度高い基準である基準②の2段階に改定された。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 目標	令和6年度 実績
DPC入院期間Ⅱ以内退院割合	67.1%	66.1%	69.8%	69.0%	70.5%
入退院支援加算算定件数	5,426件	6,665件	7,595件	5,500件	7,502件
地域連携パス（疾患別病診連携パス） 新規利用件数	526件	362件	440件	450件	440件

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
重症度、医療・看護必要度Ⅱ	39.8%	36.1%	36.6%	—	
重症度、医療・看護必要度Ⅱ①	令和6年度診療報酬改定により			26.6%	
重症度、医療・看護必要度Ⅱ②	基準が2段階に変更			39.0%	
在宅復帰率	97.8%	97.0%	97.4%	97.1%	
医療機能別病床数	高度急性期	500床	355床	306床	349床
	急性期	0床	145床	194床	151床

※医療機能別病床数 令和6年度算出方式

新静岡方式：従来の静岡方式を下記の内容へ変更した「定量的基準」（作成者：浜松医科大学小林特任教授）

高度急性期・特定入院料等区分（救命救急、ICU、HCU、NICU等）

・重症度、医療・看護必要度Ⅱ35%以上かつ平均在棟日数11日未満

急性期 ・上記を満たさない病棟

(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療）

○高度医療・専門医療等

- ・ハートセンターでは心臓疾患に対する高度・専門医療を提供するため、循環器内科と心臓血管外科が内科的／外科的視点の両面から治療方針を検討し、重症の大動脈弁狭窄症や虚血性心疾患等の心疾患にTAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）等、身体への負担が少ない最適で低侵襲な治療に積極的に取り組ん

だ。

- ・大動脈・血管センターでは患者の高齢化が進む動脈疾患や静脈疾患に対して、循環器内科と心臓血管外科が連携し低侵襲なカテーテル治療に加え、カテーテルと手術を組み合わせたハイブリッド治療により高度・専門医療の提供に取り組んだ。
- ・手術やけがによって生じたきずあと（癩痕）の整容的障害やつっぱりに伴う運動障害（機能的障害）に対して包括／総合的に治療を行う「きずあとセンター」を設置した。
- ・遺伝子情報を網羅的に検索し治療に結びつける、がんゲノム医療の開始を目指した体制づくりをすすめ、令和7年2月に「がんゲノム医療連携病院」に指定され、「ゲノム医療センター」を新設した。
- ・病床の効率的な運用を推進し、令和6年12月からHCU（ハイケアユニット）を20床から30床へ増床し集中治療部門の強化に取り組んだ。
- ・外来化学療法室を西館2階から西館3階へ移転し、新化学療法室としてベッド数を13床から20床に増床する等療養環境を改善した。
- ・がん相談支援センターでの窓口相談や、月次開催の「がん患者サロン葵」でのピアサポーターを中心とした患者／家族同士の交流による患者支援、病診がんカンファレンスや緩和ケア研修開催による診療連携体制の構築に努めた。

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
カテーテルアブレーション件数	321件	368件	411件	379件
冠動脈インターベンション件数	442件	388件	477件	410件
開心術件数	267件	212件	203件	225件
TAVI	97件	103件	101件	125件
ステントグラフト治療件数	117件	107件	130件	113件
ロボット支援手術件数	118件	131件	152件	203件
内視鏡手術件数	1,002件	1,109件	1,187件	1,083件
内視鏡検査数	4,361件	4,805件	4,881件	4,463件
PET/CT稼働件数	726件	767件	793件	716件
悪性腫瘍手術件数	737件	771件	742件	831件
がん化学療法延べ患者数	3,751人	3,827人	3,921人	3,814人

○救急医療

- ・「断らない救急医療」として静岡市内の救急搬送受け入れを積極的に行うと共に、新たに協力要請された富士医療圏からの救急搬送について、富士／富士宮医師会や消防本部と連携し受け入れ体制を整え、富士地区110例／富士宮地区32例の救急搬送を受け入れ地域に信頼される救急医療の提供に努めた。
- ・特定行為研修を受けた看護師の配置や輪番日におけるスタッフの増員等柔軟な対応により、重症患者のみでなく初期救急から最重症の三次救急まで24時間体制で幅広く受け入れた。
- ・各部署での急変時対応訓練や急変時対応の振り返り評価、院内急変迅速体制としてRRTコールの設定により、24時間患者の状態変化に迅速に対応できる体制を維持した。
- ・救急搬送応需率および救急車搬送患者数は、静岡地域内公的5医療機関では最も高かった。やむを得ず不応需となった事例については、毎月開催する救急業務委員会にて一件ごと詳細に検証を行い、適正な救急患者受け入れに努めた。

静岡地域内公的5医療機関・・・静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、

J A静岡厚生連静岡厚生病院

- ・臨床研修医等の救急現場における着実な医療技術向上を図るため、外部講師による院内救急講演会や救急ミニレクチャー、院内各科の医師を講師とした救急セミナー等の支援プログラムを実施し、医療従事者の医療技術の質の向上に努めた。

< R R T講演会 >

令和6年10月4日（金）（会場：静岡病院西館12階講堂他 受講者数218人）

テーマ：「急変をさせないシステムを作ろう」

講師：北里大学病院 クリティカルケア認定看護師 森安 恵実 氏

< 救急講演会（ハイブリッド開催） >

第1回 令和6年7月12日（金）（会場：静岡病院東館11階C会議室 受講者数53人（Web参加含む））

テーマ：「意識障害に出会ったら@ER」

第2回 令和6年11月28日(木)(会場:静岡病院東館11階C会議室 受講者数40人(Web参加含む))

テーマ:「内科救急のオ・キ・テ」

(第1回、第2回共) 講師:国保旭中央病院 救急救命科 医長 坂本 壮 氏

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
救急搬送応需率	97.5%	95.9%	97.6%	95.0%	95.5%

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
救急患者数	11,292人	12,958人	13,305人	12,893人
救急車搬送患者数	5,875人	6,989人	7,548人	7,612人
地域救急貢献率	19.6%	20.4%	20.6%	19.9%

○感染症医療

- ・医師、感染管理認定看護師等で組織された感染管理室のもとに、感染制御チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を設置し、それぞれ医師、看護師のほか薬剤師、臨床検査技師を配置し感染症患者の受け入れ体制を維持した。
- ・病院長も参加する院内感染対策委員会を毎月開催し、現状の把握と院内感染対策に関する事案の審議を行うほか、病院職員の院内感染対策に関する基本的知識の習得を目的とした研修を開催し、全職員を対象とした院内感染対策講演会の受講率は100%となった。
- ・国内での新型インフルエンザ発生期における役割や動きの検証等を目的とした静岡県主催による訓練に参加し、医療機関や検査機関等との相互連携を推進した。
- ・紫外線照射による殺菌/消毒は、定型的な運用から必要時の運用へ見直したことにより、紫外線照射ロボット稼働実績は減少した。
- ・感染対策の更なる向上と地域の感染対策を推進するため、近隣の関係機関との合同カンファレンスや相互評価等を実施した。

- ・静岡市感染症等の合同カンファレンス

(年4回開催 市内13病院、静岡医師会、清水医師会、静岡市保健所)

- ・感染対策向上加算に係る相互評価 (12月9日、1月24日 静岡病院、清水さくら病院)

- ・外来感染対策向上加算届出医療機関訪問カンファレンス

(10月28日、11月28日、12月19日、24日、2月14日、27日 市内6病院)

<院内感染対策講演会>

第1回 令和6年7月19日(金)(会場:静岡病院西館12階講堂他 受講者数1,235人 受講率100%)

第1部「抗菌薬の最近の話題」

第2部「薬剤耐性菌感染症と血液透析関連感染症の疫学と防止対策」

第2回 令和6年12月10日(火)(会場:静岡病院西館12階講堂他 受講者数1,227人 受講率100%)

第1部「感染用治療にも役立つ<DWN>」

第2部「HIV感染症 診療の現在」

<令和6年度 新型インフルエンザ等特別対策措置法に基づく訓練>

令和6年10月7日(月)(参加機関:感染管理センター、県内保健所、感染症指定医療機関、県病院会等)

訓練内容:情報伝達訓練及びWeb会議

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
感染症対応用確保病床数(最大確保数)	32床	28床	23床	6床
紫外線照射ロボット稼働実績	2,506回	2,050回	1,072回	41回
手指衛生用消毒液購入量	3,386ℓ	2,830ℓ	2,215ℓ	2,170ℓ
入院患者1人1日あたり病棟用購入量	18.9ml	17.4ml	13.8ml	13.1ml

○災害時医療

- ・4月に新規採用者を対象とした防火/防災設備研修(参加人数88人)を実施した。
- ・9月に災害対策本部の立上げを含む情報伝達訓練(参加人数55人)を実施した。医療機能連携協定を締結

した静岡厚生病院との間でLINEWORKSを活用した情報伝達訓練を行った。

- ・11月に大規模災害時における多数傷病者受入れを想定したトリアージ訓練（参加人数117人）を実施した。当該訓練ではDMAT隊員を各セクションにチューター（指導者）として配置し、災害時医療の更なる技術向上を図った。
- ・2月に、病棟での夜間火災を想定した消防防災訓練（参加人数55人）を実施した。さらに、部門別の消防出前講座（参加延べ人数55人）を実施し、職員の防災意識向上を図った。
- ・職員緊急連絡メールによる情報伝達訓練を年4回実施した。（メール登録率97.1%）
- ・非常食の保存期限の確認を行い、飲料水等の備蓄品の入替えを行った。
- ・8月8日（木）に発表された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」では、災害発生時の対応方法を再確認した。従来の職員参集基準を見直し、南海トラフ地震臨時情報発表時の対応を網羅した参集基準に改正した。
- ・DMAT隊の技能維持のため、中部ブロックDMAT実働訓練（三重県松阪市）や技能維持研修（愛知県名古屋市）、大規模地震時医療活動政府訓練（神奈川県小田原市）等へ参加した。また、隊員養成研修への参加によりDMAT隊員を前年度の15人態勢から21人態勢（医師5 看護師6 薬剤師3 臨床工学技士1 診療放射線技師2 管理栄養士1 事務3）に増員した。

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
防災訓練開催回数	4回	4回	4回	4回
DMAT隊チーム数	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム

2 患者の視点に立った信頼される医療の提供

(1) 患者中心の医療の推進

○患者中心の医療の推進

- ・患者相談窓口を総合相談センターへ一本化し、社会福祉士、看護師、医療コーディネーター等が患者と病院の架け橋となり、医療だけでなく看護や介護、医療費、社会福祉制度等多岐に渡る相談に対応した。必要に応じ院外の専門職種や諸機関等とも連携し対応に努めた。
- ・J A静岡厚生連静岡厚生病院との医療機能連携により、定期的な病院長会議及び実務担当者会議を開催し、より柔軟な退院調整に取り組んだ。病床ひっ迫の時期には診察後の入院を静岡厚生病院に依頼し救急受け入れ態勢の維持に努めた。
- ・主な相談内容は、療養や経済上の問題、入院や退院後の生活上の悩み、退院先の調整、がんの治療や就労に関する事等であり、看護師や社会福祉士が連携し対応している。核家族化により直接、在宅退院が困難な患者が増え転院調整に関する相談が年々増加している。また、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染により転院先での受入れ困難な時期もあり、転院調整に難渋した。
- ・患者の安全と人権の尊重、質の高い医療サービスを提供するため、虐待防止や早期発見、対応を目的に、養護者による高齢者虐待防止・対応に関する虐待対策研修会を開催した。
- ・「医療・ケアにおける意思決定プロセスに関わる指針」を新たに策定し、多職種で構成されるACPチームによる患者本人の意思決定を基本とした医療・ケアの推進に取り組んだ。

<医療・ケアにおける意思決定プロセスに関わる指針>

- (1) 人生の最終段階における医療やケアについて、事前に話し合い、希望を共有します。
- (2) 患者さんの価値観や希望を尊重し、最期まで患者さんが納得して生きることを支援します。
- (3) 話し合いは一度きりではなく、状況や気持ちの変化に合わせて繰り返し行います。
- (4) 医療従事者だけでなく、家族や親しい人も含めて話し合い、理解を深めます。
- (5) ACPは、患者さんの意思決定を支援し、後悔のない人生を送るための重要な取り組みです。
- (6) ACPの目指す意思決定プロセスは、終末期に限ったことではないので、当院では医療・ケアにおける普遍的な取り組みととらえています。

<院内医療倫理講演会>

令和7年1月27日（月）（会場：静岡病院西館12階講堂 受講者数54人）

「現場においてともに倫理を考えるー倫理コンサルテーションという取り組みー」

講師：静岡大学 学術院 グローバル共創科学領域 教授

静岡大学 サステナビリティセンター センター長 堂園 俊彦 氏

<虐待対策研修会>

令和6年12月9日(月)(会場:静岡病院西館12階講堂 受講者数41人)

「静岡市の虐待マニュアルや厚生労働省の統計結果の紹介」

講師:地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 築地 多津子 氏

<パートナーシップ講演会>

令和7年3月11日(火)(会場:静岡病院西館12階講堂 受講者数42人)

テーマ:「これからの医療に期待すること～SDMとアドボカシー～」

講師:認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子 氏

<院内ACP講習会>

第1回 令和6年8月30日(金)(会場:静岡病院西館12階講堂 受講者数56人)

テーマ:「ACPについて」

講師:緩和ケア内科 岩井 一也 主任科長

第2回 令和7年2月26日(水)(会場:静岡病院西館12階講堂 受講者数88人)

テーマ:「命に関わるすべての患者にACPを」

講師:循環器内科 川人 充知 科長

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
総合相談件数	5,028件	5,285件	5,714件	6,266件	
(内訳)	退院調整(在宅)	50.3%	49.0%	45.3%	43.8%
	退院調整(転院)	29.8%	30.3%	27.4%	25.3%
	経済的な相談	7.8%	5.2%	3.9%	4.8%
	受診に関する相談	5.6%	1.9%	2.1%	1.2%
	その他	6.5%	13.6%	21.3%	24.9%

(2) 医療安全対策

○医療安全対策強化に向けた取り組み

- 副病院長を医療安全管理室長として専任配置し、看護師の専従医療安全管理者、専任の医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、放射線安全管理者を配置し、組織横断的に医療安全活動に取り組んだ。ミーティングを週1回開催し、医療安全に関する情報を共有した。
- 転倒/転落/注射/チューブ管理等9つの医療安全作業部会を組織し、インシデントの分析や改善、マニュアルの見直し等を随時行い、月に1~2回発行する「医療あんぜん情報」および文書配布等により職員へ周知した。
- 医療事故に至らなかった事例をより多く収集し、事例の共有や防止策の検討/実施により医療事故の防止に努めた。「医療あんぜん情報」や研修会等でインシデントレポートの目的と必要性を説明し、職員の安全意識を高めたことにより目標値を超えるインシデントレポート件数(達成率136.4%)に繋がった。
- 医療安全への患者参画推進活動の一環として、病棟ナースステーション窓口のPCモニター背面に、患者誤認防止のため、患者氏名と患者IDによる2点確認実施を周知する掲示を行い、患者への理解と協力を呼び掛けた。
- 末梢静脈ラインの自己抜去防止のため、マフ(筒状の手編みニット製品)とカラー包帯を導入し、身体拘束の最小化による患者の安全と尊厳の尊重に努めた。
- 説明/同意書について、代替治療法やセカンドオピニオン等に関する追記等内容を見直し、インフォームドコンセントの推進に取り組んだ。
- 医療安全対策の推進と更なる向上を図るため、当院と静岡市立清水病院、清水駿府病院の3病院で連携し、院内ラウンドによる医療安全相互チェックを実施した。
 - 令和6年7月24日(水) チェック対象病院:静岡市立静岡病院
 - 令和6年11月15日(金) チェック対象病院:静岡市立清水病院
 - 令和7年2月17日(月) チェック対象病院:清水駿府病院
- 全職員を対象とした医療安全講演会の他、末梢静脈穿刺の安全対策講習会、転倒転落予防研修会、深部静脈血栓症予防講習会、インスリン勉強会、血栓塞栓症予防講習会、診療用放射線の安全利用のための研修会等を実施した。

<院内医療安全講演会>

第1回 令和6年8月2日(金)(会場:静岡病院西館12階講堂等 受講者数1,207人 受講率100%)

テーマ:「患者トラブルを防ぐ説明と記録」

講師:研修オフィスShima代表 嶋崎 明美氏

第2回 令和7年1月21日(火)(会場:静岡病院西館12階講堂等 受講者数1,200人 受講率100%)

テーマ:「裁判例からみる身体拘束のポイント」

講師:リョマホ法律事務所 弁護士 岡田 隆志氏

- ・診療プロセスの標準化を目指し、クリニカルパスの作成日数をDPC入院期間Ⅱ以内の日数となるよう多職種が連携して作成した。定期的な見直しとバリエーション分析に取り組み、医療の質の改善に努めた。

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
インシデント レポート件数(※)	2,194件	2,702件	2,865件	2,200件	3,001件

※ 続発症含む

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
入院患者の転倒・転落発生率	0.26%	0.28%	0.28%	0.28%
医療安全作業部会開催回数	33回	43回	52回	43回
クリニカルパス数	126	166	207	246

(3) 患者サービスの向上

○患者サービス向上に向けた取り組み

- ・院内9か所に提案箱を設置し、毎週、回収した意見/要望を内容に応じて担当部署へ振り分け、対応策の検討/実施を行った。内容は運営会議および各部門連絡会議を通じて職員に周知し、患者・家族には院内掲示でフィードバックしている。
- ・患者満足度調査を11月に実施した。(入院11月5日~18日、外来11月11日~15日)入院・外来あわせて1,511枚配布し、回収は1,153枚(回収率76.3%)であった。男女比では男性53.7%、女性46.3%、年代別では70歳代31.7%、80歳以上23.7%、60歳代17.5%と約7割が60歳以上であった。
- ・目標値である入院患者満足度は91.6%(達成率101.8%)、外来患者満足度は86.5%(達成率101.8%)と目標値を上回る結果となった。
- ・患者満足度向上への取り組みとして課題を抽出し、患者満足度の向上に取り組んだ。

(積極的な情報発信)

新たに公式LINE/YouTubeチャンネルを開設し、講座等イベントの開催案内、診療科別の治療紹介、オンライン母親学級等動画配信を行った。

(売店の拡張)

東館11階売店(セブンイレブン)のリニューアル工事を行い、店舗面積を約2倍に拡張すると共に品揃えを増やし利便性の向上に努めた。

(外来・番号表示板の一部移設)

番号表示板の見にくさについて意見を受け、西館1階呼吸器内科の番号表示板を見やすい位置へ移設した。

(プライバシー保護への注意喚起)

外来待合での症状説明や聞き取りについてプライバシーの尊重を求める意見を受け、人混みから離れての聞き取りや空いている診察室の利用等プライバシーへの配慮について職員に周知した。

(接遇の向上)

一般的なビジネスマナーではなく医療機関に特化した研修内容とした。開催日程を増やし、eラーニングを併用することで受講者数の向上を図った。

<接遇講演会>

令和6年11月12日(火)、14日(木)、15日(金)、18日(月)、20日(水)ほか

(会場:静岡病院院内会議室等 受講者数1,253人 受講率97.6%)

基礎編「第一印象の重要性、接遇基本マナー5項目等」

確認編「信頼関係を構築するために、

良好なコミュニケーションに必要な「共感力」等」

講師：(株)ニチイ学館 医療関連事業本部

ブランディングアドバイザー 疋田 早苗 氏

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
入院患者満足度(※)	87.2%	89.8%	91.6%	90.0%	91.6%
外来患者満足度(※)	80.1%	83.7%	89.6%	85.0%	86.5%

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
入院患者満足度(※)(接遇項目のみ)	86.8%	92.9%	92.9%	92.5%	
外来患者満足度(※)(接遇項目のみ)	82.2%	87.3%	87.5%	88.1%	
提案箱投書件数	128件	94件	106件	97件	
(内訳)	苦情	44.5%	45.7%	54.7%	62.9%
	提案、要望	32.8%	29.8%	18.9%	17.5%
	感謝、お褒め	20.3%	24.5%	24.5%	19.6%
	その他	2.4%	0.0%	1.9%	0.0%

※「満足」以上とした割合

3 医療従事者の確保と働き方改革

(1) 医療従事者の確保

○医療従事者確保に向けた取り組み

- ・医療法や施設基準上、必要な人員を確保している。各部門から出された増員要求を査定した上で各職種／部門ごとに必要性を定めた採用をすすめ、欠員の状況に応じて中途採用も行っている。
- ・静岡市での勤務を希望する市内出身の医師／医学生及びその親族等を対象とした、市主催の説明会「静岡市ドクター・バック合同説明会」に当院の市内出身医師と参加しプレゼンテーションや個別相談等を行った。
- ・医学生へのリクルート活動では、従来の東京／大阪に加え、仙台や博多開催に継続してブース出展する等当院の知名度向上に努め、他県出身者も含め多くの医学生が受験する結果となった。
- ・職員の円滑なコミュニケーションによる良好な研修環境等、当院の強みでもある「温かな雰囲気」を医学生に直接感じてもらえるよう、個別の丁寧な対応により満足度を高めた結果、医学生の病院見学は前年度の213人から258人と大幅に増加した。特に、浜松医科大学50人、京都大学11人、秋田大学9人、日本大学8人、金沢大学・関西医科大学7人等県内外から見学に訪れた。
- ・臨床研修医／専攻医の確保へ積極的に取り組んだ結果、医学生の見学や応募者数は増加し、専攻医では専門研修プログラムを見据えた研修医の見学も22人(前年度実績13人)と大幅に増え、内科専門研修プログラムでは定員の8人を満たす結果となった。
- ・看護師の募集活動では、県内に限らず県外の大学や看護専門学校へ訪問し、就職説明や当院の魅力を発信し伝えている。また、ハローワークで開催される看護職の就職説明会にも参加する等、就業機会の拡大を図った。看護実習の積極的な受け入れにより静岡病院の魅力を多くの学生に知ってもらうよう努めた。
- ・当院の採用ホームページにリクルート動画「先輩の声」を掲載した。新人や2年目ナース、男性看護師やママさん看護師等様々な立場における現場の生の声を収録し、仕事のやりがいや職場の雰囲気、育児との両立や当院の特徴等について実際のエピソードも交えて分かりやすく紹介した。
- ・看護師採用試験は、受験機会の創出のため、他の病院に先駆けて4月から複数回実施した。また、昨年度から小論文試験を廃止する等試験科目を簡素とすることで、より静岡病院を受験しやすいように変更し、看護師数の確保に努めた。

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
医師・歯科医師数	163人	167人	169人	177人
（うち、専攻医数）	(29人)	(35人)	(29人)	(31人)
（うち、研修医数）	(26人)	(26人)	(27人)	(27人)
助産師・看護師数	533人	528人	526人	545人
医療技術員数（※）	169人	170人	174人	177人
各種専門資格を有する職員数	125人	126人	138人	138人
医師・歯科医師	92人	92人	102人	102人
助産師・看護師	16人	18人	19人	19人
医療技術員数（※）	17人	16人	17人	17人

※ 医療技術員…薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

（2）医療従事者の働きやすい環境づくり

○働きやすい環境の整備

- ・目標値である有給休暇の年間取得日数（医療従事者）は13.7日（達成率105.4%）と目標値を上回った。職員数の多い看護師の有給休暇取得増が要因となった。職種別では医師や医療技術員の取得が前年度実績をやや下回った。また、医師の平均時間外勤務時間数は47.2時間/月（達成率95.3%）と目標値を達成できなかったが前年度実績から改善された。
- ・医師の働き方改革施行初年度であったが、時間外勤務縮減に向けた勤務間インターバルの確保や代償休息の取得、面接指導等を進め対象となる特例水準診療科の医師を中心に制度への理解を浸透させた。
- ・医師の時間外勤務縮減に向け、複数担当医制/チーム制の導入等特定の医師に負担が偏らない体制整備に取り組んだ。また、毎月、長時間勤務者を把握し本人への指導等を行い、年960時間を超える医師は8人（前年度実績12人）に減少した。
- ・育児短時間勤務看護師とパート職員で構成された「一般病棟応援看護師チーム」により、入院患者の病歴確認や入院生活のオリエンテーション等の入院業務支援を行った。
- ・SNS等での個人の特定リスク及び個人情報保護の観点から、職員用名札の表記を「フルネーム（漢字）」から「姓のみ（ひらがな）」に変更し、職員が安心して働くことができる環境づくりに努めた。
- ・令和6年度の看護師特定行為研修修了者は3人であった。令和2年度の開講以降、修了者数は22人と年々着実に増加しており、医療行為のタスクシフトとして引き続き院内体制の整備を図っていく。
- ・看護の質向上のため実践（特定行為関連業務）として、治療方針等の意思決定支援や個別カンファレンスにおいて、特定行為看護師がその知識を活かし患者サポートに幅広く貢献した。
- ・令和6年度より看護師特定行為の実績をデータベース化し、実績の可視化による目標管理を推進した。

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
有給休暇の年間取得日数 （医療従事者）	12.4日	12.6日	12.3日	13.0日	13.7日
医師の平均時間外 勤務時間数	41.1時間/月	48.5時間/月	48.6時間/月	45.0時間/月	47.2時間/月

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
有給休暇の年間取得日数（医療従事者）				
（内訳）				
医師・歯科医師	9.3日	9.7日	12.1日	11.8日
助産師・看護師	13.8日	13.8日	11.8日	14.4日
医療技術員（※）	11.4日	11.9日	13.8日	13.6日
時間外勤務 年960時間超えの医師数	5人	14人	12人	8人
看護師特定行為研修修了者数	4人	2人	8人	3人
うち、当院職員修了者数	3人	1人	6人	3人

※ 医療技術員…薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

4 地域との連携

(1) 地域の医療機関との連携

○地域の医療機関との連携推進

- ・目標値である紹介率（達成率 105.5%）、逆紹介率（達成率 118.6%）はいずれも前年度を上回り目標を達成した。新規の受診はかかりつけ医からの紹介がほとんどであり、症状が安定した際にはかかりつけ医へ逆紹介し、連携実績を地域連携室で一元的に把握することで速やかな連携に繋がった。
- ・地域連携室に専従担当者を配置し連携実績の統計を作成する他、DPC公開データの利用／分析により地域の医療状況を把握すると共に、連携先への訪問や協議・情報交換の場で直接意見や要望を収集し、円滑な連携を推進した。
- ・新たにJ A静岡厚生連静岡厚生病院と医療機能連携協定を締結し、定期的な病院長会議／病病連携ミーティングによる情報共有や、48時間ルール（申込・相談から48時間以内に受入可否を回答する）による診療の迅速化、患者の早期相互受入れや医療機器の共同利用等、連携強化に努めた。
- ・病床や医療機器の共同利用、イージーイーツートネット、ふじのくにバーチャルメガホスピタル（通称：ふじのくにねっと）等、診療情報の施設間共有システムや連携安心カード、複数の地域医療連携パスの活用により、他施設・機関と様々な連携を行った。
- ・静岡市立静岡病院／静岡県立総合病院／静岡赤十字病院／静岡済生会総合病院による静岡市病診連携室会議（Web会議）を開催し、各病院の課題や疑問点等の情報交換により知識や経験の共有、コミュニケーションの活性化、業務効率の向上を図った。
- ・開業医への訪問活動や、静岡市静岡医師会・清水医師会の会員病院等との交流により、「顔の見える病診連携」を推進した。

<病診連携総会>

令和6年8月1日（木）（会場：グランディエールブuketーカイ）

静岡市立静岡病院病診連携総会

61施設、計120人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。

<地域連携勉強会>

令和6年10月16日（水）（会場：静岡病院西館12階講堂 受講者数43人）

テーマ：「心不全手帳を用いた療養指導」

講師：慢性心不全看護認定看護師 廣瀬 由紀 副看護師長

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
紹介率	86.6%	90.6%	90.8%	87.0%	91.8%
逆紹介率	140.0%	155.5%	153.5%	140.0%	166.1%

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
連携安心カード(オレンジカード)新規発行枚数	273枚	231枚	231枚	194枚

(2) 市や関係機関等との連携

○市や関係機関等との連携推進

- ・医学生の病院実習として令和6年度は45人（浜松医科大学27人、京都大学13人、関西医科大学2人、杏林大学2人、滋賀医科大学1人）を受け入れた。杏林大学や滋賀医科大学等新たな大学の受け入れも積極的に行い、医学生の育成へ積極的に取り組んだ。
- ・看護学生の病院実習は458人（静岡市立看護専門学校、常葉大学健康科学部看護学科等）を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護学生の育成に努めた。
- ・臨床研修医を対象に月2回定期的で開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを行うと共に、当院からも12人の臨床研修医が救急自動車同乗研修として研修に参加し、地域の医療技術向上と相互の連携強化に努めた。
- ・看護師特定行為研修では、昨年度から新たに実地協力施設となった静岡県看護協会から令和6年度に2人を受入れ、他の教育機関と連携した看護師の育成に取り組んだ。

- ・静岡市消防局（葵／駿河／千代田消防署、救急課）との意見交換会を行い、救急医療への取り組みや課題の共有により相互理解を深め、救急医療の更なる連携強化に努めた。
- ・救急の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より7人の実習を受け入れた。

＜静岡市消防局警防部救急課＞

救命救急士の就業前病院実習2人（実習者1人、指導救命士1人）、再教育病院実習5人

- ・就労支援事業所からの依頼により9人（3～5日間）の障がい者職場実習を受け入れた。また、15人の病院見学を受け入れた。
- ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。
- ・手術指導や研修会講師等関係機関からの派遣要請に応え、安定的な地域医療の提供と医療水準の向上に貢献した。

＜主な派遣実績＞

静岡厚生病院、静岡市立清水病院、清水厚生病院、清水さくら病院、浜松医科大学附属病院、浜松ろうさい病院、静岡市静岡医師会急病センター、静岡市地域リハビリテーション推進センター、志太・榛原救急医療センター等

- ・イベント開催時の救護所応急対応やがんに関する解説動画の作成、各種専門委員会／審査会への参加等、静岡市からの派遣要請に応え事業の運営に協力するとともに公的医療機関としての役割を果たした。

＜主な派遣実績＞

静岡マラソン2025、第71回安倍川花火大会、第22回静岡市民芸能発表会、静岡市立高等学校SSH（スーパーサイエンスハイスクール事業）、静岡市指定難病審査会、静岡市小児慢性特定疾患審査会、静岡市衛生検査所精度管理専門委員会、静岡市診察用放射性同位元素(RI)審査委員会、静岡市介護認定審査会、静岡市社会福祉協議会身体障害者福祉専門分科会障害程度審査部会等

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
看護実習受入実人数 (看護学校)	260人	482人	554人	458人
救急救命士実習受入人数 (消防局)	12人	2人	14人	7人
障がい者職場実習受入人数 (支援学校等)	1人	9人	1人	9人

(3) 市民への情報提供

○市民への情報提供と広報活動の充実

- ・広報担当である総務課総務・企画係と広報委員会を中心に、定期的な広報誌／病院年報発行の他、講演会の開催、ホームページからの情報発信等により患者や市民、関連施設などに向けた啓発活動に取り組んだ。
- ・新たにLINE公式アカウントを取得し令和6年8月から配信を開始した。静岡市民「からだの学校」等のイベントや講座の開催案内等を配信し、「友だち」登録者数は令和7年3月末で700人を超えた。
- ・令和6年8月にYouTube公式チャンネルを新たに開設した。リクルート案内や「からだの学校」、診療科別の特長や治療紹介、オンライン母親学級等の動画配信を行った。令和7年3月末で配信動画数は22本となった。
- ・病院ホームページは、当院の取り組みを一般の方や医療関係者により分かりやすく、よりスムーズにアクセスできることと検索エンジンでの上位表示を目的に、トップページの一部改修等を実施した。ホームページ訪問数は517,204（達成率95.8%）となり、前年度実績から約45,700増加した。

＜主な改修点＞

- ・スマートフォン版ホームページを、閲覧頻度の高いページへ円滑に移動できるよう、当該ページのアイコンをトップページに常時表示するよう固定化。
- ・広報誌をもとにした「メディカルコラム」ページを新規に作成。
- ・検索エンジンに表示されるディスクリプション（ウェブページの概要や要約を記述した文章）について、閲覧者の訪問をより促す内容へ変更。
- ・がんに対する正しい知識と、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めるため、中学生を対象としたがん教育の講義を7校、1,054人を対象に実施した。

- ・「第 15 回静岡市民からだの学校」や市民公開講座の開催、市政出前講座への協力等により患者／家族や市民を対象に、医療に関する教育・啓発活動を行った。
- ・コロナ禍により、令和元年以降開催を見送っていた「第 16 回 静岡病院フェア」を 5 年ぶりに開催した。院内企画の他、静岡市や J A 静岡厚生連静岡厚生病院、雙葉学園、心臓病友の会等によるブースを設け、地域との交流を深めた。
- ・医師を目指す高校生を対象に、医師の魅力や学生時代の過ごし方について、当院に勤務する医師／研修医が講義・座談会を行う「こころざし育成セミナー」を開催した。

<第 15 回 静岡市民「からだ」の学校>

中心市街地版

令和 6 年 8 月 17 日 (土) (会場：札の辻クロスホール 参加人数 244 人)

テーマ：「心臓病と脳卒中の深い関係 ～今、気になる 心房細動のこと～」

地域版 in 井川 令和 6 年 10 月 8 日 (火) (会場：井川生涯学習交流館 参加人数 17 人)

地域版 in 清沢 令和 6 年 10 月 22 日 (火) (会場：清沢生涯学習交流館 参加人数 33 人)

地域版 in 梅ヶ島 令和 6 年 10 月 30 日 (水) (会場：梅ヶ島生涯学習交流館 参加人数 24 人)

<第 16 回 静岡市民「からだ」の学校>

令和 7 年 2 月 1 日 (土) (会場：札の辻クロスホール 参加人数 101 人)

テーマ：「肺炎を防ぐには？～ワクチン予防、誤嚥予防、口腔ケアの視点から学ぶ～」

<市民公開講座>

令和 6 年 6 月 22 日 (土) (会場：静岡病院西館 12 階講堂 参加人数 40 人)

テーマ：「みんなにやさしい静岡のお産」

令和 6 年 11 月 30 日 (土) (会場：静岡病院東館 11 階 C 会議室 参加人数 35 人)

テーマ：「当院におけるがん診療について」

<市政出前講座 (主な実績) >

令和 6 年 8 月 8 日 (木) (会場：城南静岡高等学校 参加人数 203 人)

テーマ：「がんの予防と治療について学ぼう」

令和 6 年 9 月 2 日 (月) (会場：静岡県理容生活衛生同業組合静岡第 3 支部/静岡西支部 参加人数 84 人)

テーマ：「ウイルス性の病気と感染対策

～新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスなど～

令和 6 年 11 月 7 日 (木) (会場：社会福祉法人葵寮 参加人数 107 人)

テーマ：「ウイルス性の病気と感染対策

～新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスなど～

<第 16 回 静岡病院フェア>

令和 6 年 12 月 7 日 (土) (会場：静岡病院館内各所 来場者数約 800 人)

テーマ：「きて☆みて☆さわって☆みんなのしずびよう☆」

【院内企画】「病院のお仕事体験コーナー」「健康チェックコーナー」

「いろいろ体験コーナー」「しずびようわくわく☆スタンプラリー」

【特別企画】クリスマスコンサート (雙葉学園)

フラワーアレンジメント (静岡デザイン専門学校)

マイナ保険証登録支援コーナー (静岡市)

活動紹介コーナーポスター掲示コーナー (心臓病友の会)

<こころざし育成セミナー>

令和 6 年 8 月 1 日 (木) (会場：静岡病院西館 12 階講堂 参加人数 17 人)

テーマ：「～先輩からのメッセージ～」

目標値

項目	令和 3 年度実績	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 6 年度目標	令和 6 年度実績
病院ホームページ訪問数 (※)	523,057	453,099	471,482	540,000	517,204

※ 訪問数…セッション数。ホームページへのアクセスから離脱までを「1」とする指標。

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
市政出前講座 受講延べ人数	256人	1,036人	730人	901人
中学生対象 「がん教育」活動実績	7校 12講義・8日間	9校 15講義・11日間	9校 14講義・9日間	7校 12講義・7日間

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 効率的な業務運営等

○効率的な業務運営と改善活動

- 組織や人事、財務に関する課題を検討する経営統括会議を年46回、病院運営に係る課題を検討する運営会議を年23回開催し速やかな課題解決に取り組んだ。設定した重要業績評価指標（KPI）による進捗管理や分析・検討を月次で行い、各診療科との院長ヒアリングでは診療科別・疾患別の原価計算資料によりディスカッションを行った。

重要業績評価指標（KPI）… 新入院患者数、救急外来入院患者数、1日平均入院患者数
平均在院日数、入院単価、入院収益、稼働率

- クリニカルパスの活用や適切な看護による効率的な医療の提供と、柔軟な病床管理等に努めたことにより平均在院日数は10.4日（達成率105.8%）と短縮した。平均在院日数の短縮により1日平均入院患者数は405人（達成率96.4%）に減少したが、新入院患者数は13,010人（前年度比+215人）、入院単価は診療報酬改定に伴うベースアップ評価料の新設に加え、クリニカルパスの増加や早期退院に向けた取り組み等により100,204円（前年度比+3,397円）に増加し、高度な急性期医療の提供を推進した。
- 病院運営に必要な委員会や部会を設置し、委員会要綱に則り活動を行った。各委員会で活動目標を設定し、活動内容を経営統括会議・運営会議へ報告するとともに診療部会議や病院部門連絡会、院内ネットワークを通して各職員へ周知した。
- 院内広報誌「コンパス」やe-ラーニング等を活用し、当院の目標や経営課題等を各職員と共有した。
- 「きざあとセンター」や「ゲノム医療センター」の新設、病棟再編や人員配置の適正化等による効率的な病棟運営と働きやすい環境づくりへの取組み、医事経営室と総務課情報係を統合した「経営課」の新設等、業務効率の向上や医療を取り巻く環境の変化に応じた組織運営に努めた。
- 病棟の業務量調査から超過勤務削減に取り組んだ看護部の業務改善活動が、「静岡県版看護業務効率化アワード2024」（静岡県看護協会主催）において最優秀賞を受賞した。
- 新設した経営課でのRPA導入による業務の効率化と、費用削減対策として総合医療情報システム（電子カルテシステム及び部門システム）における保守契約管理業務の効率化及び管理の適正化に取り組み、事務職員の病院経営への参画と育成を推進した。
- 令和7年度導入予定の院内スマートフォン、各診療科目標管理、医療機器価格ベンチマークシステム導入、各種費用に対する価格交渉等の更なる費用削減取組みの準備を行った。
- 総務省の「地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業」を活用し、令和6年11月より外部アドバイザーから地域連携・各診療科別の目標管理導入・費用削減・看護部の運営等についてアドバイスを受けた。
- 日頃の臨床研究等における統計業務で感じる疑問の解決に向けて、研究計画の立案やデータの収集と分析等の相談を行う、静岡社会健康医学大学院大学による「統計・研究相談会（月2回程度）」を新たに開始した。
- 令和5年度に受審した病院機能評価の結果を受け、ナースコール増設等による院内の環境整備や各種マニュアル／ガイドラインの見直しを行い、継続的な医療の質改善活動に努めた。
- 令和5年度に受審したJCEP（卒後臨床研修評価機構）の評価を受け、臨床研修中の評価項目の見直しやガイドラインで推奨されているACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する研修の開催等、臨床研修内容の充実に努めた。

<診療報酬に関する講習会>

令和7年2月～3月

テーマ：「保険診療の理解と個別指導等について」（e-ラーニング受講 受講者数 607人）

講師：(株)ソラスト 加藤 慶一 氏

テーマ：「2024年度 診療報酬改定の振返り・

2026年度改定に向けた同行について」（e-ラーニング受講 受講者数 525人）

講師：(株)スズケン 岡山 幸司 氏

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
1日平均入院患者数	399人	419人	407人	420人	405人
平均在院日数	11.4日	11.6日	10.6日	11.0日	10.4日

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
入院単価	90,601円	91,128円	96,807円	100,204円
新入院患者数	11,787人	12,110人	12,795人	13,010人

2 教育研修の充実

○教育研修の充実と環境整備

- ・新規採用職員を対象とした多職種合同研修を4月18日(木)、19日(金)の二日間、テルモメディカルプラネックス(神奈川県足柄上郡中井町)で実施した。また、医療安全や感染対策、個人情報等の全職員を対象とした教育/研修は年間を通して開催し、eラーニングやDVDの活用等により受講率の向上に努めた。
- ・静脈注射トレーニングアームやAVR(大動脈弁置換術)トレーニングモデル等のシミュレーターの新規購入の他、前年度新たに設置したトレーニングルーム(東館5階)の活用、院内各部署で実施していたBLS(一次救命処置)研修のプログラム化により、実習プログラム受講延べ人数は2,353人(達成率213.9%)と目標値を大きく上回った。
- ・各部署から医療技術やサービスの品質向上に向けた取り組み(20演題)を発表する「ホスピタルリザルト報告会(ポスター形式)」を開催し、職員の医療技術の向上を図った。

＜令和6年度ホスピタルリザルト報告会＞(開催期間:令和7年2月7日～3月21日)

- ＞令和6年度 臨床試験管理センターの実績/臨床試験管理センター
 - ＞当院における川崎病診療の成績2017-2024/小児科
 - ＞気管支動脈塞栓術における学習曲線の検討/呼吸器内科
 - ＞血管造影法に基づく冠血流予備量比システムと
侵襲的冠血流予備量比の診断性能と検査内容の評価/放射線技術科
 - ＞Intravascular LithotripsyとRotational Atherectomyの
石灰化病変に対するステント拡張性の比較/循環器内科
 - ＞化学療法室移転に伴う看護体制確立にむけての取り組み
～セル看護提供方式導入の試み～/看護部
 - ＞非定型尺骨骨折の治療経験/整形外科
 - ＞顕微鏡下での人工血管を使用した訓練法/脳神経外科
 - ＞超音波診断装置の保守管理業務における現状および展望/臨床工学科
 - ＞当院における特定看護師の活動を考える/看護部
 - ＞薬剤科入院支援業務の統計比較と現状2/薬剤科
 - ＞2024年シュミレーションラボ室の保有機器について/シュミレーションラボ室
 - ＞リハビリテーション技術科の実績と新たな取り組みの紹介/リハビリテーション技術科
 - ＞整形外科におけるクリニカルパスの運用について/整形外科
 - ＞クリニカルパス使用率上昇のための取り組み/医事課
 - ＞当科における薬剤関連顎骨壊死の治療成績/口腔外科
 - ＞肝細胞癌治療の長期成績/消化器内科
 - ＞当院における非ホジキンリンパ腫(5年以上経過例)の5年生存率/血液内科
 - ＞子宮体癌の5年生存率/産婦人科
 - ＞ロボット肺切除は是か非か～コストベネフィットの観点から～/呼吸器外科
- ・第41回看護研究発表大会を「未来につなげる看護のちから」をテーマに11月27日(水)～28日(木)に開催し170人が参加し、後日の動画配信により411人が視聴した。

Q2 「当院を職場としてすすめようと思いますか」 2.99 (達成率 101.7%)

参考：一般病院(500床以上)ベンチマーク 2.92

- ・職員満足度調査はいずれも目標値を達成するとともに、令和3年度以降、最も高い結果となった。

目標値

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和6年度
	実績	実績	実績	目標	実績
職員満足度(5段階評価)					
Q.現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3.72	3.71	3.78	3.74	3.79
Q.当院を職場としてすすめようと思いますか	2.92	2.92	2.91	2.94	2.99

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
資格取得支援制度利用者数	7人	7人	8人	4人
教育休職制度等利用者数	1人	2人	1人	1人
育児・介護休業制度利用者数	78人	75人	84人	99人

4 事務部門の強化

○事務職員の育成

- ・「目標による管理」を事務職員で試行した。業務の進捗管理や上司との面談を通じて、業務の進め方や改善点についての指導を行い、達成度に応じて年度末に業績評価を行うことで、職員の事務遂行能力を高める取り組みとした。
- ・令和7年度より本格実施する「事務職員人材育成プラン」を策定し、自身のキャリアを見通せる体制を構築した。プランに組み込んだ職員表彰制度について実施要領を作成し、令和7年度より全職員を対象に実施予定。職員の士気を高揚し、業務効率の向上を図る。
- ・新設した経営課でのRPA導入による業務の効率化と、費用削減対策として総合医療情報システム(電子カルテシステム及び部門システム)における保守契約管理業務の効率化及び管理の適正化に取り組み、事務職員の病院経営への参画と育成を推進した。
- ・静岡市が主催する階層別研修や選択研修に事務職員6人が参加し、職位別に必要となる知識や事務職員としての事務能力向上等を図り、事務部門の強化に努めた。

<階層別研修>

- ・説明能力向上研修(採用3年目研修)
- ・総合マネジメント研修(主査級研修)等

<選択研修>

- ・クレーム対応研修(コミュニケーション能力)
- ・レジリエンス研修(業務遂行能力)
- ・段取り力向上研修(業務遂行能力)
- ・ワンペーパー資料作成研修(政策形成能力)等

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
自院主催研修 事務職員受講者数	63人	60人	63人	58人
静岡市主催研修 事務職員受講者数	20人	19人	17人	6人
医療団体等主催外部研修 事務職員受講者数	6人	9人	19人	17人

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営指標に係る数値目標の設定

○数値目標達成に向けた取り組み

- ・医業収は、21,169百万円(前年度比135百万円増)となった。内訳として、外来収益は延べ患者数が241,482人(前年度比▲12,593人)に減少したことにより6,031百万円(前年度比▲216百万円)となったものの、入院収益は、入院診療単価が100,204円(前年度比+3,397円)に増加したことや新患者数が13,010人(前年度比+215人)に増加したこと等により14,830百万円(前年度比+414百万円)であった。

- ・ 医業費用は、給与改定や職員数の増加による給与費の増加、燃料費調整単価等の上昇に伴う光熱費の増加等により 22,830 百万円（前年度比+548 百万円）となった。
- ・ 経常収支比率は 96.9%（達成率 100.3%）、医業収支比率は 92.7%（達成率 100.8%）と共に目標値を達成したが、全国的な人件費の高騰や診療材料費等の高騰も重なり、経常収支は 843 百万円（前年度比▲936 百万円）の赤字となった。

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
経常収支比率	105.4%	105.1%	100.4%	96.6%以上	96.9%
医業収支比率	92.4%	94.2%	94.4%	92.0%以上	92.7%

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
不良債務比率	0%	0%	0%	0%
資金不足比率	0%	0%	0%	0%
累積欠損金比率	0%	0%	0%	0%

2 収入の確保及び費用の節減

○収入の確保及び費用の節減に向けた取り組み

- ・ 経営課を新設し、従来の収益増加対策に加え費用削減対策の立案に努め、収支を意識した業務を行った。経営判断やモニタリングが必要なデータを迅速に提供するため、ルーティン業務での OJT や Web セミナー等、各職員がデータ集計スキルや必要な情報を習得した。

(収入の確保)

ア 適切な診療報酬請求事務の実施

- ・ 施設基準の取得については、定期的に取得可否を検証し機会損失のないよう対応した。
 <参考：令和6年度 施設基準取得は5件、年間 121,000 千円の増収>

イ 未収金発生の防止と回収の取組

- ・ オンライン資格確認システムを活用した健康保険証や限度額適用認定証の速やかな確認及び、職員による督促を行い令和6年度の収納率（現年度分）は 99.2%（前回 99.3%）となった。

ウ 地域医療機関との連携

- ・ J A 静岡厚生連静岡厚生病院との医療機能連携協定締結による病病連携強化等により、紹介率は 91.8%（前年度実績 90.8%）、逆紹介率は 166.1%（前年度実績 153.5%）といずれも前年度実績を上回った。

エ 入退院支援に係る取組

- ・ 入院決定から退院までの一貫した支援や、退院困難な患者のスクリーニングによるアプローチ等を早期に行い、適切な入院治療と円滑な退院に取り組んだ。

(費用の節減)

ア 給与費抑制に係る取組

- ・ 給与費の適正な管理については、経営への影響に配慮しつつ勤務環境の改善等働き方改革を進め、職員の適正配置及び時間外勤務の適正化による給与費の抑制と共に、医療従事者の処遇改善を目的とした診療報酬の確保等に努めた。職員数の増加及び全国的な賃上げ等の影響により医業費用における給与費は 10,427 百万円（前年度比+573 百万円）、目標値の給与費比率は 49.3%（達成率 101.4%）となった。

イ 医薬品や診療材料費の抑制に係る取組

- ・ 後発品の採用については、毎月の薬剤委員会にて各メーカーからの最新情報を検証し、切替可能な医薬品から行い、後発医薬品指数は 90.1%となった。
- ・ 医薬品価格交渉については、アドバイザーからの最新の市場価格情報に基づき医薬品ディーラーと定期的に交渉（年2回）し、主要5社の医薬品最終値引率は 14.3%となった。
- ・ 診療材料の価格交渉については、当院が利用契約を行っているベンチマークシステムを指標とし、職員がディーラーと価格交渉を行いベンチマークシステムの平均値を下回るよう取り組んだ。
- ・ 在庫管理については、医薬品は年4回、診療材料は毎月の実地たな卸しを行い、在庫管理の徹底や期限切れ等による減耗損の発生防止に努めた。

ウ 職員の経営意識の醸成

- ・ 収支状況や診療状況について経理係と医事経営係で分析し、経営統括会議等において幹部職員に月次報告し、必要に応じて経営向上のための協力事項を幹部や各部門に伝達した。

目標値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
職員給与費比率	49.4%	48.2%	46.8%	50.0%以下	49.3%
経費比率	17.3%	16.2%	15.7%	18.0%以下	16.0%
委託費比率	9.1%	8.2%	8.0%	9.1%以下	8.1%

参考値

項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
病床稼働率(506床)	78.8%	82.8%	80.4%	80.1%
入院収益	13,182百万円	13,931百万円	14,416百万円	14,830百万円
外来収益	5,454百万円	5,926百万円	6,247百万円	6,031百万円
薬品費比率	17.2%	18.3%	18.6%	17.8%
診療材料費比率	16.8%	16.1%	17.2%	17.5%

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

1 法令等の遵守

○法令等の遵守

- ・静岡県保健所による医療法第25条第1項に基づく立入検査において、静岡県消防局よりスプリンクラーの散水障害の除去、避難口等の障害となる物品の除去、避難器具の周囲にある物品の除去、消防用設備等点検結果報告書に記載された不良箇所の改修等7件の指摘を受け、対応を進めた。
- ・診療データの持ち出しについて手順の見直しを行い、院内講演会等で職員に周知し個人情報保護の適正化を図った。
- ・令和6年10月～11月を個人情報保護重点取組月間とし、各部署で目標と取り組み内容を定めて活動した。また、診療データ持ち出し手順の見直しや個人情報保護院内ラウンド等を行い、個人情報の管理強化と職員の意識向上に取り組んだ。
- ・職員を対象としたハラスメント防止研修会を開催した。また、ハラスメント防止に関する院内への注意喚起や相談窓口の周知等、職場内のハラスメント防止に取り組んだ。
- ・情報セキュリティ対策として、攻撃メール訓練やICT-BCP机上訓練、情報セキュリティ研修会を開催し、サーバー攻撃や人為ミス、情報漏えい等が発生するリスクとその対策について周知した。

<個人情報保護講演会>

令和7年2月28日(金)(会場:静岡病院西館12階講堂等 受講者数455人)

- テーマ: 1 病院業務における個人情報保護のポイント
2 診療データのシステム外持ち出し手順の改定について
3 SNS利用時の注意点

講師:総務課 長谷川 智 課長補佐

<情報セキュリティ研修会>

第1回 令和6年9月27日(金)(会場:静岡病院西館12階講堂 受講者数58人)

- テーマ:「セキュリティ対策の必要性」
「病院におけるセキュリティインシデントなど」

講師:NECフィールドディング(株)

第2回 令和6年10月30日(水)(会場:静岡病院西館12階講堂 受講者数69人)

- テーマ:「医療機関を取り巻くセキュリティに関する状況」
「事例に学ぶ「情報セキュリティ」など」

講師:富士通Japan(株)

<標的型攻撃メール訓練>

令和7年1月29日(水)(対象人数500人)

経理課情報係より職員500人に訓練メールを送信。メール内URLへのアクセスは25人(開封率5.0%)で、このうち経理課情報係への報告者数は6人(報告率24.0%)であった。未報告者に報告義務があることを周知し、職員のセキュリティ意識の向上に努めた。

<ICT-BCP机上訓練>

令和7年2月6日(木)(参加人数 医療情報システム担当者等6人)

医療情報システム安全管理責任者(電算委員長)の指示のもと、担当課内でICT-BCPに

基づいた机上訓練を実施。訓練により非常時の紙カルテ運用への迅速な移行が指摘され、今後、自然災害発生時の対応も含め各部署と共同で紙カルテ運用の検証を行う。

＜ハラスメント防止研修会＞

令和7年3月3日(月)(会場：静岡病院西館12階講堂 委託・派遣除く職員対象 受講者数73人)

テーマ：「ハラスメント防止オンライン研修」

講師：(株)ビズアップ総研 藤内 恵子氏

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
医療法第25条第1項に基づく立入検査での指摘事項数	0件	0件	0件	7件
個人情報保護講演会受講者数	679人	777人	817人	455人
ハラスメント防止研修会受講者数 (所属長対象)	41人	55人	78人	73人

2 施設・医療機器等の更新

○施設・医療機器等の更新

- ・病院事務における、より一層の業務の効率化や職員の負担軽減のため、最新のデジタル技術を活用した医療DXの推進に取り組んだ。

(問診の電子化)

部分導入から対象診療科の拡大を進めたが、問診票を含む運用の整理が困難であることや、システムでの諸様式の対応ができず一部紙運用となることから継続を断念。今後は問診票の整理が完了した時点で再度の導入を検討する。

(RPAの適用)

看護部では病棟管理日誌等8台のロボットが稼働。医事経営部では経営課の診療科別入退院予約表や、医事課の患者情報更新等5台のロボットが稼働。今後も引き続き適用範囲を拡大し業務の効率化に努める。

(その他導入に向けた取組み)

職員の円滑なコミュニケーションのため、院内スマートフォンの令和7年度導入に向けた準備を進めた。また、ベッドサイドシステム(スマートベッドシステム)や電子カルテの音声入力等の導入に向け、デモの開催や実証実験等による検証を実施した。

- ・HCUを20床から30床に増床した他、外来化学療法室の移転と13床から20床へ増床、また、外来合同処置室の充実等により療養環境を改善した。
- ・昇降機等の施設設備の更新及び、核医学診断用装置(SPECT/CT)や中央分析搬送・生化学・免疫検査装置等の医療機器の更新を行った。

＜主な施設設備及び医療機器の更新＞

- ・中央分析搬送・生化学・免疫検査装置更新
- ・核医学診断用装置(SPECT/CT)更新
- ・西館1階眼科空調機更新工事・西館昇降機更新
- ・西館5・6号機エレベーターリニューアル工事
- ・駐車場自動料金精算機更新工事
- ・駐車場医事課前車止設置工事
- ・駐車場棟カメラ設備入替工事
- ・東館2階PS(パイプスペース)スプリンクラー設備増設工事

Ⅲ. 法人の内部統制の状況

当法人は、内部統制に係る基本方針を定め、内部統制体制の整備し、内部統制の充実及び強化を図っています。
＜内部統制に関する基本方針（業務方法書 第5条）＞

法人は、役員（監事を除く。）の職務の執行が法、他の法令、設立団体の条例若しくは規則又は定款に適合することを確保するための体制その他法人の業務の適正を確保するための体制を整備するとともに、継続的にその見直しを図るものとする。

【令和6年度実績】

・理事会の開催

第1回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和6年6月27日（火）開催

審議事項	議案第1号	令和5年度財務諸表等の承認について
	議案第2号	令和5年度業務実績報告書の承認について
	議案第3号	令和6年度予算の変更について
報告事項	報告第1号	専決処分の報告について
	報告第2号	債権の放棄について
	報告第3号	静岡労働基準監督署の是正勧告に伴う対応について
	報告第4号	訴訟（控訴審）案件について
	報告第5号	医療訴訟（控訴審）案件について
	報告第6号	医療機能連携協定の締結について

第2回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 臨時会（書面開催）

審議事項	議案第1号	物品調達業務契約（核医学診断用装置）の締結について
	議案第2号	令和6年度予算の変更について
	議案第3号	令和7年度予算編成要領について
	議案第4号	医療行為に係る訴訟事件に関する和解について
議決日	令和6年9月13日（金）	

第3回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 臨時会（書面開催）

審議事項	議案第1号	人事案件について
議決日	令和6年9月27日（金）	

第4回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和6年12月9日（月）開催

審議事項	議案第1号	物品調達業務契約（ハイブリッド手術室対応血管撮影装置）の締結について
	議案第2号	物品調達業務契約（放射線治療システムアップグレード）の締結について
	議案第3号	令和6年度予算の変更について
	議案第4号	地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員給与規程の一部改正について
	議案第5号	地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について
報告事項	報告第1号	専決処分の報告について（産婦人科）
	報告第2号	専決処分の報告について（眼科）
	報告第3号	医療訴訟（控訴審）案件について
	報告第4号	令和6年度上半期の経営状況について
	報告第5号	静岡労働基準監督署の是正勧告に伴う対応について

第5回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和7年3月12日（月）開催

審議事項	議案第1号	地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款の一部変更について
	議案第2号	令和6年度予算の変更について
	議案第3号	令和7年度計画について
	議案第4号	令和7年度予算について
	議案第5号	地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員給与規定等の一部改正について
	議案第6号	地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について

報告事項 報告第1号 令和6年度決算見込みについて
報告第2号 医療機能連携協定の締結について

・内部監査の実施

令和6年度静岡市立静岡病院内部監査（会計監査）

監査期間 令和6年11月～令和7年2月

監査対象 各月における収入・支出をはじめとした会計処理及び予算執行事務

内部監査責任者 事業管理部 参与兼総務課長

内部監査担当者 事業管理部 総務課経理係長及び係員2名

令和6年度静岡市立静岡病院内部監査（業務監査）

監査期間 令和6年11月～令和7年3月

監査対象 総務課/人事課/施設課/経営課/医事課/総合相談センターにおいて、令和6年度事業として実施した委託料、賃借料、手数料、修繕費の執行計30件の契約事務

内部監査責任者 事業管理部 総務課長

内部監査担当者 所属長からの推薦により内部統制統括責任者（事業管理部長）が任命した職員9名
（総務課/人事課/施設課/経営課/医事課）

IV. 業務運営上の課題・リスク管理の状況

（1）リスク管理の状況

法人では、地方独立行政法人静岡市立静岡病院リスク管理に関する規程に基づき、法人の使命及び目標の達成を阻害する要因を定め、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化に取り組んでいます。

＜リスク管理体制＞

1. 理事長は、法人におけるリスク管理を統括し、かつ、最終的な責任を有する。
2. 事業管理部長は、理事長を補佐し、リスク管理総括管理者として、リスク管理を総括する。
3. 部等（室及びセンターを含む。以下同じ。）の長は、リスク管理責任者として、部等におけるリスク管理を総括する。

＜リスク管理委員会＞

法人は、法人におけるリスク管理の検討、審議等を行うため、リスク管理委員会を置き、経営統括会議をもって充てる。

（2）業務運営上の課題

法人の目的を阻害する主な要因は次のとおりです。

1. 法令等の遵守に関するもの
2. 財務報告に関するもの
3. 情報システムに関するもの
4. 医療に関するもの
5. 事務手続に関するもの
6. 災害又は事件等に関するもの
7. その他法人の業務遂行に関するもの

法人では、安心・安全な医療の提供（医療安全対策、法令・行動規範の遵守の徹底）、災害時医療・感染症医療の提供など、様々なリスクに対する備えと発生時の対応や、損失の最小化を図るための対策を検討し、リスク管理に努めています。詳細は、II. 業務実績等の状況を参照ください。

V. 予算と決算の対比

(1) 予算（令和6年度）

(単位：百万円、税込)

区分	予算額	決算額	差額 決算－予算
収入	24,215	24,111	▲105
営業収益	23,730	23,601	▲129
医業収益	21,399	21,257	▲141
運営費負担金収益	2,082	2,082	0
補助金等収益	249	261	12
その他営業収益	0	0	0
営業外収益	146	179	33
運営費負担金収益	48	48	0
財務収益	2	7	5
その他営業外収益	97	124	28
臨時利益	0	0	0
資本収入	339	330	▲9
運営費負担金収益	0	0	0
長期借入金	300	300	0
その他資本収入	39	30	▲9
その他収入	0	0	0
支出	24,803	24,831	28
営業費用	22,262	22,223	▲39
医業費用	21,809	21,835	26
給与費	10,442	10,429	▲12
材料費	7,676	7,696	20
経費	3,596	3,624	28
研究研修費	95	86	▲9
一般管理費	453	388	▲65
営業外費用	140	145	5
臨時損失	0	88	88
資本支出	2,400	2,375	▲25
建設改良費	1,741	1,715	▲26
償還金	587	587	0
その他資本支出	72	73	1
その他支出	0	0	0

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

【人件費】

期間中総額 10,793 百万円を支出した。なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

(2) 収支計画 (令和6年度)

(単位：百万円、税抜)

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
収入の部	23,930	23,788	▲142
営業収益	23,791	23,608	▲183
医業収益	21,362	21,169	▲194
運営費負担金収益	2,082	2,082	0
補助金等収益	249	259	10
寄附金収益	0	0	0
資産見返負債戻入	97	97	0
営業外収益	139	173	34
運営費負担金収益	48	48	0
財務収益	2	7	5
その他営業外収益	89	118	29
臨時利益	0	7	7
支出の部	24,764	24,631	▲133
営業費用	23,459	23,244	▲215
医業費用	23,007	22,830	▲177
給与費	10,436	10,427	▲8
材料費	7,661	7,510	▲152
経費	3,374	3,393	18
減価償却費	1,447	1,420	▲27
研究研修費	88	80	▲8
一般管理費	452	414	▲38
営業外費用	1,305	1,299	▲5
臨時損失	0	88	88
純利益	▲834	▲843	▲10
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益	▲834	▲843	▲10

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

(3) 資金計画 (令和6年度)

(単位：百万円、税込)

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
資金収入	31,381	31,466	85
業務活動による収入	23,874	23,784	▲91
診療業務による収入	21,399	21,217	▲181
運営費負担金による収入	2,130	2,130	0
その他の業務活動による収入	346	436	91
投資活動による収入	39	51	12
運営費負担金による収入	0	0	0
その他の投資活動による収入	39	51	12
財務活動による収入	302	300	▲2
長期借入れによる収入	300	300	0
その他の財務活動による収入	2	0	▲2
前年度からの繰越金	7,166	7,331	166
資金支出	31,381	31,466	85
業務活動による支出	22,403	22,933	531
給与費支出	10,890	10,701	▲189
材料費支出	7,676	8,319	642
その他の業務活動による支出	3,837	3,914	77
投資活動による支出	1,439	2,005	567
有形固定資産の取得による支出	1,367	1,427	60
無形固定資産の取得による支出	0	2	2
投資その他の資産の取得による支出	0	500	500
その他の投資活動による支出	72	76	4
財務活動による支出	961	961	▲1
長期借入金の返済による支出	300	300	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	287	287	0
その他の財務活動による支出	374	374	▲1
次年度への繰越金	6,578	5,566	▲1,012

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

VI. その他市の規則で定める業務運営に関する事項

施設及び設備に関する計画 (令和6年度)

(単位：百万円、税込)

施設及び設備の内容	決算額	財源
施設、医療機器等整備	1,715	静岡市長期借入金等

VII. 財務諸表及び運営状況

(1) 決算概要

令和6年度は、当院の第3期中期計画2年目の年であり、引き続き急性期診療体制の強化を推進しました。クリニカルパスの利用拡大や地域医療連携による早期退院の促進を通じて在院日数の短縮を図るとともに、「断らない医療」として救急患者の積極的な受け入れを進め、新規入院患者の確保に努めました。これらの取組みにより、新入院患者数、入院診療単価は、過去最高を記録した令和5年度実績をさらに上回る結果となりました。

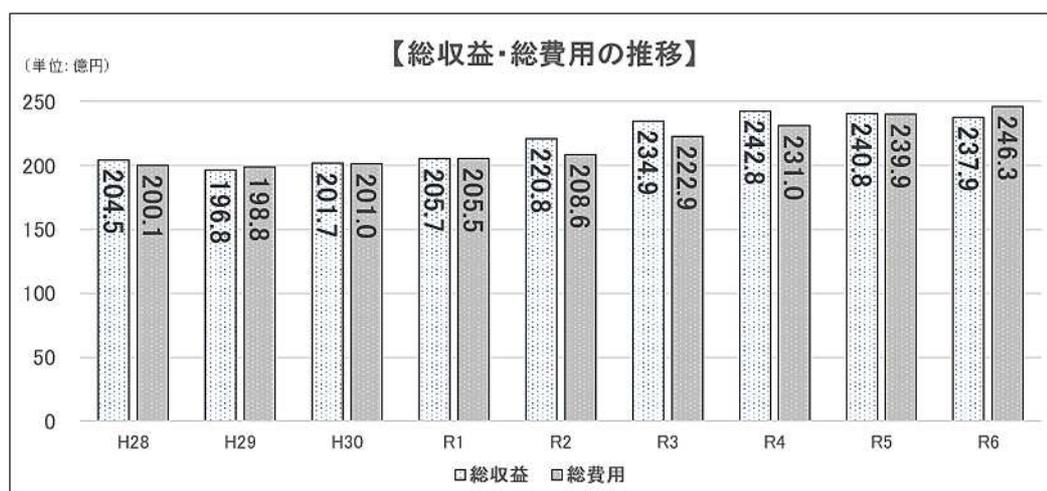
しかしながら、全国的な人件費の高騰に加え、診療材料費、光熱費の高騰に対して診療報酬は上がらず、医業費用の増加率が医業収益以上に増加したことにより、当院の経営に大きな影響を及ぼしました。

収益については、入院収益は診療単価の増により、148.3億円、前年度比4.1億円の増加となった一方、外来収益は効率的な医療提供を行うため、開業医への逆紹介を増やすなど延患者数を減らす努力をした結果、60.3億円、前年度比2.2億円の減少となりました。

また、新型コロナウイルス感染症関連の補助金の皆減により、補助金等収益は2.6億円、前年度比4.0億円の減少となりました。

費用については、医業費用の給与費は職員の増員に加え、給与改定等の影響により、104.3億円、前年度比5.7億円の増加となった一方、材料費は薬品費の減に伴い、75.1億円、前年度比1.0億円の減少となりました。

これらの結果、令和6年度の総収益は237.9億円、総費用は246.3億円となり、当期純損失は8.4億円の赤字決算となりました。

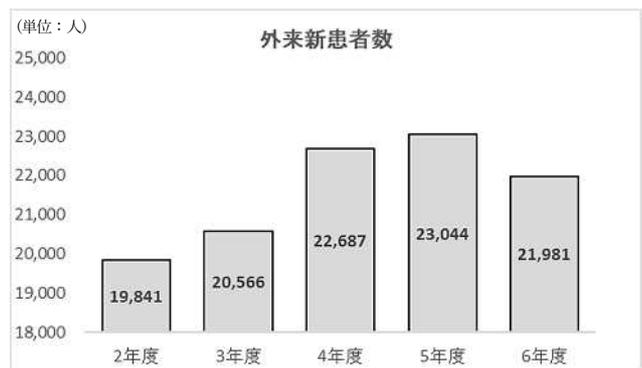
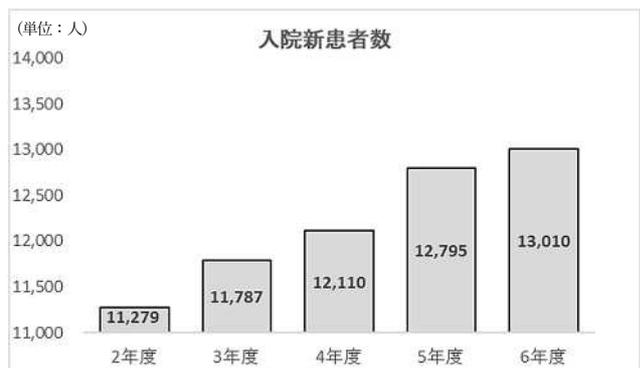
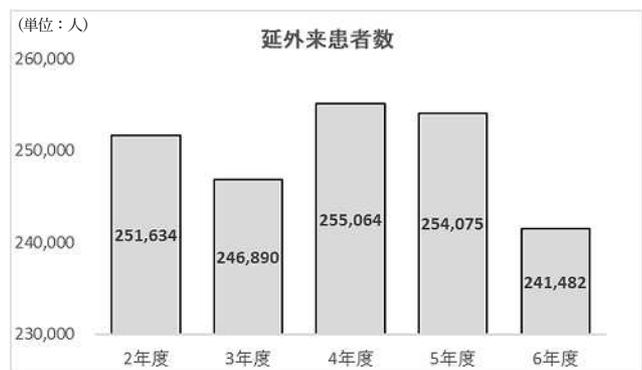
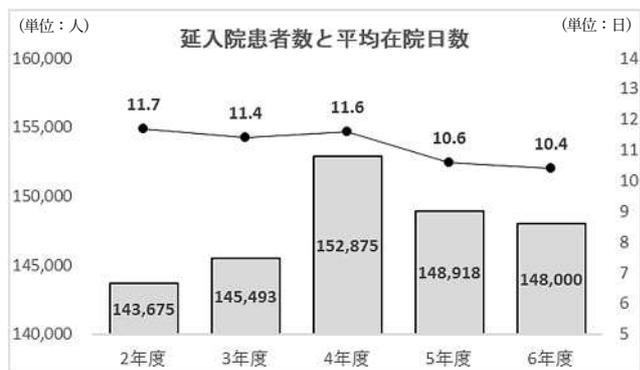
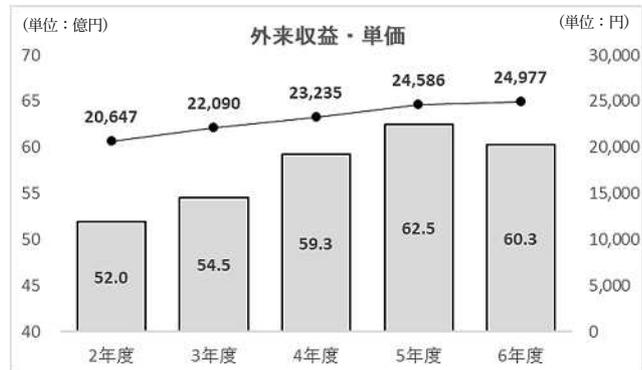
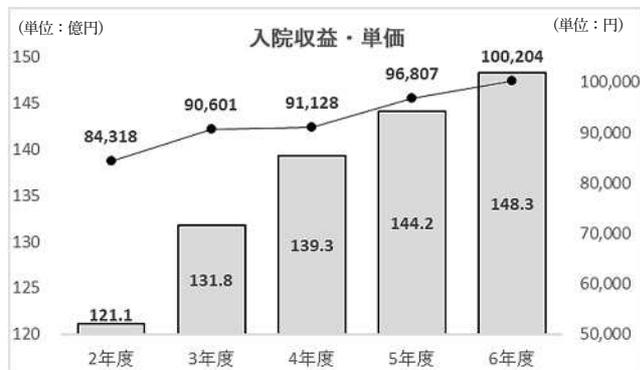


(2) 主な診療実績

入院関連	令和6年度実績	令和5年度実績	増減
診療単価	100,204円	96,807円	3,397円
新患者数	13,010人	12,795人	215人
平均在院日数	10.4日	10.6日	△0.2日
延患者数	148,000人	148,918人	△918人
一日平均患者数	405人	407人	△2人
病床稼働率	80.1%	80.4%	△0.3P

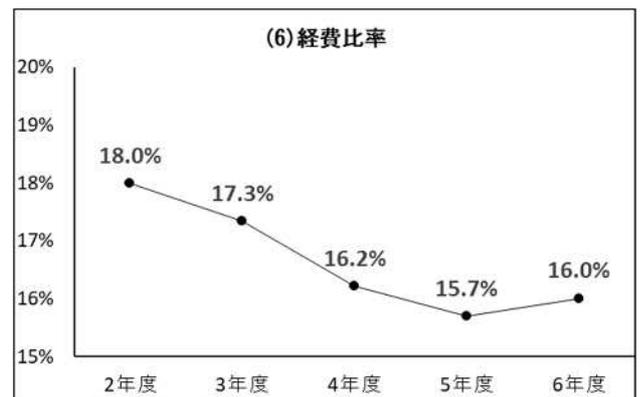
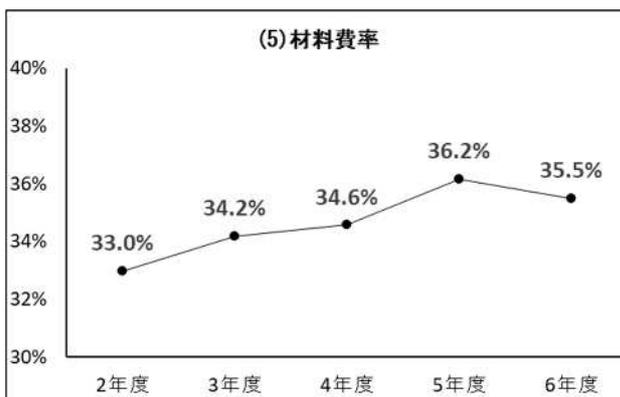
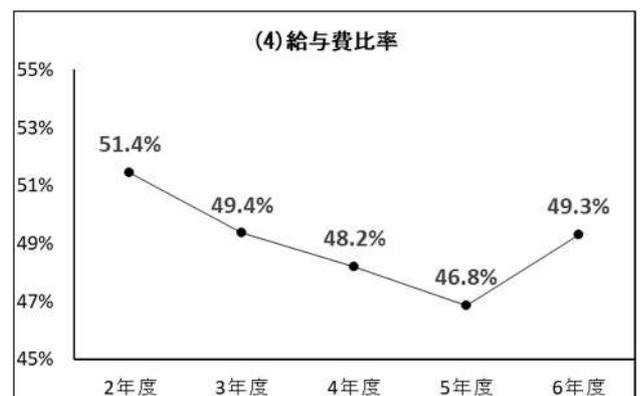
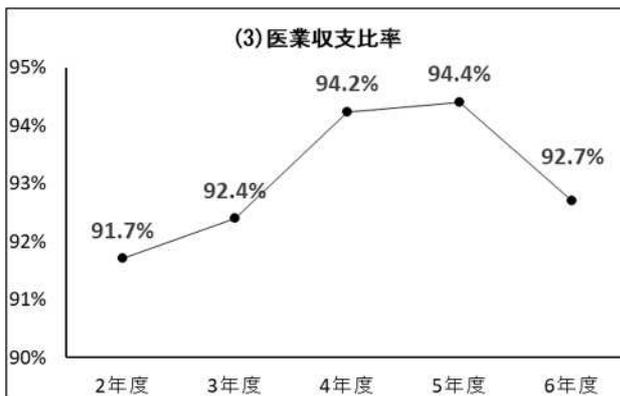
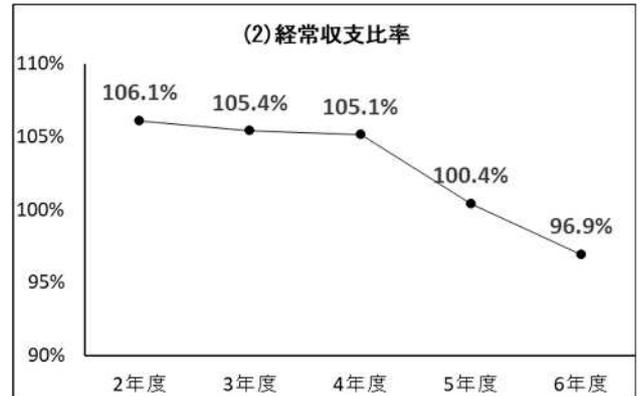
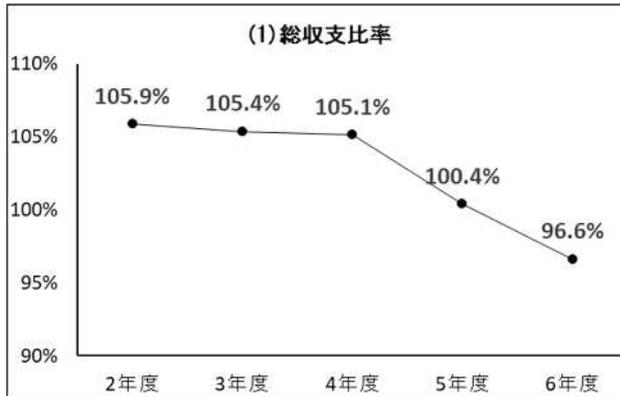
外来関連	令和6年度実績	令和5年度実績	増減
診療単価	24,977円	24,586円	391円
新患者数	21,981人	23,044人	△1,063人
延患者数	241,482人	254,075人	△12,593人
一日平均患者数	994人	1,046人	△52人

稼働状況等	令和6年度実績	令和5年度実績	増減
手術件数	6,072件	5,903件	169件
紹介率	91.8%	90.8%	1.0P
逆紹介率	166.1%	153.5%	12.6P



(3) 経営指標

区分	令和6年度実績	令和5年度実績	増減
(1) 総収支比率	96.6%	100.4%	△3.8 P
(2) 経常収支比率	96.9%	100.4%	△3.5 P
(3) 医業収支比率	92.7%	94.4%	△1.7 P
(4) 給与費比率	49.3%	46.8%	2.5 P
(5) 材料費比率	35.5%	36.2%	△0.7 P
(6) 経費比率	16.0%	15.7%	0.3 P



【経営指標の計算式】

- (1) 総収支比率・・・総収益／総費用
- (2) 経常収支比率・・・(営業収益＋営業外収益)／(営業費用＋営業外費用)
- (3) 医業収支比率・・・医業収益／医業費用
- (4) 給与費比率・・・給与費(医業費用)／医業収益
- (5) 材料費比率・・・材料費(医業費用)／医業収益
- (6) 経費比率・・・経費(医業費用)／医業収益

(4) 貸借対照表

決算日（3月31日時点）におけるすべての資産（資金の運用形態）、負債及び純資産（資金の調達方法）を記載した法人の財政状況を明らかにしたものです。

（単位：百万円）

項目	令和6年度末	令和5年度末	増減額	主な増減理由
資産の部	21,959	23,376	△ 1,417	
固定資産	12,109	11,836	272	
土地	3,001	3,001	0	
建物	4,714	4,732	△ 18	西館外来化学療法室などによる増加 +317百万円 減価償却の進捗による減少 △335百万円
構築物	9	9	△ 0	
器械備品	2,369	2,187	182	医療機器の取得、更新等による増加 +919百万円 減価償却の進捗による減少 △736百万円
車両	6	10	△ 4	減価償却の進捗による減少
リース資産	735	1,071	△ 336	電子カルテ等の減価償却の進捗による減少
建設仮勘定	3	24	△ 21	西館外来化学療法室改修工事の完了による減少
無形固定資産	18	25	△ 7	減価償却の進捗による減少
投資有価証券	1,000	500	500	地方債の購入による増加
長期貸付金	254	276	△ 22	看護師修学資金の返還の進捗による減少
破産更生債権等	43	58	△ 15	
貸倒引当金（破産更生債権等）	△ 43	△ 58	15	未収金額の減による減少
その他投資	0	0	0	
流動資産	9,851	11,540	△ 1,690	
現金及び預金	5,566	7,331	△ 1,765	※キャッシュ・フロー計算書参照
未収金	3,780	3,835	△ 55	補助金に係る未収金の減少
貸倒引当金	△ 28	△ 28	△ 0	
医薬品	348	248	99	
診療材料	163	132	31	
前払金	17	17	△ 1	
その他流動資産	5	4	1	※保険前払分、有価証券利息未収分
負債の部	13,852	14,426	△ 574	
固定負債	10,186	10,966	△ 780	
資産見返負債	298	394	△ 96	負担金等財源取得資産購入分の減少
長期借入金	600	600	0	
移行前地方債償還債務	3,875	4,169	△ 293	既往債の償還による減少
引当金	4,955	4,964	△ 9	
リース債務	458	838	△ 381	電子カルテ・ネットワーク機器償還による減少
その他固定負債	0	1	△ 1	
流動負債	3,666	3,460	207	
一年以内返済予定長期借入金	300	300	0	
一年以内返済予定移行前地方債償還債務	293	287	6	
未払金	1,873	1,738	135	退職金の支払いによる増加
未払費用	100	94	6	
引当金	544	510	33	給与改定に伴う賞与引当金の増加
一年以内支払予定リース債務	381	374	6	
その他流動負債	175	155	20	※預り諸税、預り納付金
純資産の部	8,107	8,951	△ 843	
資本金	4,919	4,919	0	※静岡市出資金
利益剰余金	3,188	4,031	△ 843	
前期中期目標期間繰越積立金	3,938	3,938	0	第2期中期目標期間からの繰越
目的積立金	93	0	93	令和5年度当期純利益振替による増加
当期末処分利益（損失）	△ 843	93	△ 937	
うち当期純利益（損失）	△ 843	93	△ 937	

（注）表中の数値は項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(5) キャッシュ・フロー計算書

一会計期間（4月1日から翌年3月31日までの1年間）における業務活動、投資活動及び財務活動の3つの区分に分けて資金の流れを明らかにしたもので、現金と普通預金の動きを示しています。

（単位：百万円）

項目	令和6年	令和5年	増減額	主な増減理由
業務活動によるキャッシュ・フロー	850	2,088	△ 1,238	
材料の購入による支出	△ 8,319	△ 8,418	99	薬品・診療材料支払額の減少による
人件費支出	△ 10,701	△ 10,181	△ 520	給与等支払額の増加による
その他の業務活動による支出	△ 3,800	△ 3,645	△ 155	経費等支払額の増加による
医業収入	21,217	20,924	293	入院・外来収益の増加による
運営費負担金収入	2,130	2,170	△ 40	中期計画どおり
補助金等収入	294	1,250	△ 956	新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少による
寄附金収入	0	0	0	
その他の業務活動による収入	136	113	23	
利息及び配当金の受取額	6	0	6	
利息の支払額	△ 114	△ 126	13	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,954	△ 1,538	△ 416	
定期預金の戻入による収入	0	100	△ 100	
定期預金の預入による支出	0	△ 100	100	
投資その他の資産の取得による支出	△ 500	△ 500	0	資金運用による
有形固定資産の取得による支出	△ 1,427	△ 1,153	△ 274	固定資産購入額の増加による
無形固定資産の取得による支出	△ 2	△ 10	8	ソフトウェアの減少による
貸付金の回収による収入	31	30	1	看護師修学資金返済分
貸付けによる支出	△ 73	△ 72	△ 1	看護師修学資金貸付分
預かり保証金受入れによる収入	18	3	15	
預かり保証金払出しによる支出	△ 4	△ 1	△ 3	
補助金等収入	3	166	△ 163	医療機器購入に係る補助金の減少による
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 661	△ 648	△ 12	
長期借入れによる収入	300	300	0	
長期借入金の返済による支出	△ 300	△ 300	0	
移行前地方債償還債務の償還による支出	△ 287	△ 281	△ 6	
リース債務の返済による支出	△ 374	△ 367	△ 6	
資金増加額	△ 1,765	△ 99	△ 1,666	
資金期首残高	7,331	7,430	△ 99	
資金期末残高	5,566	7,331	△ 1,765	

（注1）表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(6) 純資産変動計算書

	【地方独立行政法人静岡市立静岡病院】						(単位：円)	
	I 資本金			II 利益剰余金			利益剰余金 合計	純資産 合計
	地方公共団体 出資金	資本金 合計	前期中期目標期間 繰越積立金	病院施設の整備・修繕、 医療機器の購入、人材育 成及び能力開発の充実に 充てる目的積立金	当期末処分利益 (又は当期末処分損失)	うち当期総利益 (当期総損失)		
当期首残高	4,919,483,623	4,919,483,623	3,937,917,605	-	93,119,159	-	4,031,036,764	8,950,520,387
当期変動額								
I 資本金の当期変動額								
II 利益剰余金の当期変動額 (純額)								
(1) 利益の処分又は損失の処理								
利益処分による積立				93,119,159	△ 93,119,159	-	-	-
(2) その他								
当期純損失					△ 843,449,848	△ 843,449,848	△ 843,449,848	△ 843,449,848
当期変動額合計	-	-	-	93,119,159	△ 936,569,007	△ 843,449,848	△ 843,449,848	△ 843,449,848
当期末残高	4,919,483,623	4,919,483,623	3,937,917,605	93,119,159	△ 843,449,848	△ 843,449,848	3,187,586,916	8,107,070,539

(7) 行政コスト計算書

【地方独立行政法人静岡市立静岡病院】

(単位：円)

科 目	金 額		
I 損益計算上の費用			
医業費用	22,830,238,305		
一般管理費	413,714,514		
営業外費用	1,299,377,477		
臨時損失	87,962,477		
損益計算書上の費用合計		24,631,292,773	
II 行政コスト			24,631,292,773